

～平成25年度～幸手市子ども議会



1月28日(火)幸手市議会議場で子ども議会を開催しました。
この子ども議会は、子どもたちに市や政治をより身近に感じてもらうことを目的に、平成23年度から「子ども会議」を「子ども議会」へと名称変更し、開催場所も実際の議場に移して行っているものです。



また、子ども議会では、市の名称である「幸」・「手」にちなんで、「私が大人になったとき幸せを手にできるまち」をテーマに一般質問を事前にクラスの友だちや家族と考え

てもらっています。
今年度も、各小学校から2人ずつ代表児童が集い、子ども議員となって市への一般質問を発表しました。
※子ども議会の質疑の内容は、市ホームページ(<http://www.city.satte.lg.jp/>)で閲覧することができます。



子ども議員からは、「圏央道インターチェンジの開発について」「通学路の安全対策について」「学校の避難所の機能について」「インフルエンザ予防接種について」など、さまざまな質問が発表されました。



質問席に立った子ども議員のみなさんは、しっかりと市の執行部の面々を見ながら一般質問を発表していました。



また、自分の発表だけでなく、ほかの子ども議員の一般質問もメモを取るなど、興味深そうに聞いていました。



子ども議会後の懇談会では、「圏央道について、今まで詳しく知らなかったけれど、知ることができて良かった」「これからも市に色々な意見を出していきたい」といった感想が出ました。

子ども議員のみなさんは、子ども議会を通して議会の仕組みを学ぶとともに、自分たちの暮らしている幸手市について、より理解を深めることができたようでした。

問合せ 秘書室 ☎(43)111-1
1内線 223・FAX(43)7088



3月1日～7日

春の火災予防運動

消すまで
心の警報

ONのまま

(全国統一防火標語)



3月1日(土)から7日(金)までの1週間「春の火災予防運動」が実施されます。

春とは言っても寒さが残り、ストーブなどの火気を使用する機会がまだ多い時季です。また、空気が乾燥しているため、ちょっとした不注意から火災が発生しやすい時季でもあります。火の取扱いには十分注意しましょう。

軽油・灯油やガソリンの取扱い

▼大量保管は危険

軽油・灯油は、大量に保管すると、大規模な火災につながる危険性が高いため、大量保管することはできるだけ控えてください。また、ガソリンは、火災発生の危険性が極めて高く、火災が発生すると爆発的に延焼・拡大するため、

容器に入れて保管することはやめましょう。

【給油時の注意事項】

○給油を開始する前にストーブなどの火を消し、車両などのエンジンは停止

○周囲の安全を確認

○携行缶はガソリンなどの噴出を防ぐためにエア抜きすることをお忘れな

○直射日光が当たる場所や高温になる場所は避けて保管

○そのほか、取扱説明書などの安全上の留意事項を厳守

▼灯油ポリタンクは

正しく使用

灯油ポリタンクにガソリン・軽油を入れ保管すると変形し、中身の液体が漏れ出るおそれがありますので、絶対に入れないでください。

【灯油ポリタンクの保管方法】

○火気から十分に離す

○直射日光が当たる場所は避けて保管

○灯油ポリタンクは積み重ねず平積みで保管

○5年を目安に容器を交換

住宅用火災警報器を
設置しましょう

住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。まだ設置していない人は、早めに設置するようにしましょう。

▼住宅用火災警報器の

アンケート調査

消防署では、住宅用火災警報器の設置状況を調査するため、つぎのとおり職員がお宅を訪問し、アンケート調査を行います。みなさんのご理解とご協力をお願いします。

調査期間 3月16日(日)まで

対象 市内の一般住宅(約100件)

※詳細については、組合ホームページ(<http://saitama-tohu-119.jp/>)をご覧ください。

問合せ 埼玉東部消防組合

幸手消防署 ☎(42)9119

《人権それは愛》

過ちを繰り返さないために～災害時の思いやり～

みなさんは気付いているでしょうか。関東大震災から90年が過ぎていたことを。

90年前の震災では、人々の思い込みや偏見による民族差別、職業差別、よそ者差別などから、さまざまな差別事件が発生し、外国人などに対する虐殺があったと当時の新聞に記されています。

近年でも、阪神・淡路大震災、新潟県中越沖地震、東日本大震災など大きな災害が起こる度に、避難所での、災害時要援護者(高齢者、障がいのある人など)や女性への配慮不足が問題となっています。また、根拠のない思い込みや偏見から、避難者がホテルの宿泊を拒否されたり、小学生が避難先の学校でいじめられたりする人権侵害や農産物の風評被害なども発生しています。

人はなぜ誤った認識や偏見により人を傷付けてしまうのでしょうか。また、災害時にはどのようなことに心を配れば良いのでしょうか。

私たちは同じ過ちを繰り返さないために歴史から学び、災害時には平常時以上に周りの人を思いやり、行動することが求められます。

そのためにも、普段からさまざまな人権問題について関心を持ち、認識を深めておきましょう。